

ナノテクノロジー・材料共通基盤技術検討WGの議事概要

(1) ナノテクノロジー・材料共通基盤技術検討WGの運営について
案が了承された。

(2) 主査互選

主査：一般社団法人ナノテクノロジービジネス推進協議会 塚本建次副会長を選任。

(3) ナノテクノロジー・材料共通基盤技術検討WGの検討の流れについて
ナノテクノロジー・材料共通基盤技術検討WGの当面の進め方について検討し、
案が了承された。

〔主な意見〕

- ・ ナノテクノロジー・材料に関する政府施策全体の把握と予算額の集計が必要。

進め方 各省の協力を得ながら、事務局にて、7月までに整理。

(4) 技術ポテンシャルマップ（仮称）について

技術ポテンシャルマップ（仮称）（広くナノテクノロジー・材料技術が10年後に
達成する技術レベル（技術ポテンシャル）を網羅的に俯瞰）について検討した。

〔主な意見〕

- ・ 内容の充実を図るには、研究独法のいっそうの協力が必要。
- ・ 産業による分類と技術による分類が混在しているため、整理が必要。
- ・ 掲載する技術の粒度にばらつきがあり、整理が必要。

進め方 第2回WGにて引き続き検討

(5) 重点化の考え方について

ナノテクノロジー・材料技術に関する重点化の考え方について検討した。

〔主な意見〕

- ・ 創出される産業の規模や競争上のポジショニングの視点も必要。
- ・ 経産省がすでに策定している技術戦略マップは参考になる。
- ・ 技術の波及効果は、それ自体の産業規模に、その下流に位置する産業を加えて考えるべき。
- ・ 10年後の日本の産業を強くするものという発想で大括り化して検討すべき。
- ・ WGの成果は戦略協議会へ提案するものであることを意識する必要がある。
- ・ 互いに重なる視点、解釈がばらつきそうな視点がある。2軸にこだわる必要はない。
- ・ 安全性に関する視点が必要。
- ・ 重要技術でも出口がイメージできない場合もある。

進め方 第2回WGにて引き続き検討